

- 1 ヒトからヒトへ直接伝搬するのはどれか。
 - a 蟯虫
 - b 旋毛虫
 - c 日本住血吸虫
 - d パンクロフト糸状虫
 - e 熱帯熱マラリア原虫
- 2 Turner症候群について正しいのはどれか。
 - a 手足のリンパ性浮腫を呈する。
 - b 正常卵巣を有する。
 - c 血中ゴナドトロピンが低下する。
 - d 高身長を呈する。
 - e 高齢出産で生まれる頻度が高い。
- 3 発熱をきたす疾患はどれか。2つ選べ。
 - a 腎膿瘍
 - b 急性尿道炎
 - c 急性膀胱炎
 - d 龟头包皮炎
 - e 腎乳頭壊死
- 4 正しいのはどれか。
 - a 動眼神経麻痺では縮瞳する。
 - b Horner症候群では眼瞼裂が開大する。
 - c 視神経炎ではマリオットの盲点が拡大する。
 - d うっ血乳頭では中心視力が早期から低下する。
 - e 滑車神経麻痺では頭を障害側に傾けると複視が増強する。
- 5 水疱症について正しいのはどれか。2つ選べ。
 - a 先天性表皮水疱症は出生時に水疱を認めない。
 - b 尋常性天疱瘡の標的抗原はデスモグレインである。
 - c 落葉状天疱瘡は口腔内に難治性のびらんを生じる。
 - d 水疱性類天疱瘡は表皮内水疱を形成する。
 - e 後天性表皮水疱症は自己免疫性疾患である。
- 6 注意欠陥多動性障害の説明のうち誤っているのはどれか。
 - a 学齢期の有病率は3～5%である。
 - b 女児より男児に多い。
 - c 2つ以上の場面で症状がみられる。
 - d メチルフェニデートが治療薬である。
 - e GABA神経系が関連する。
- 7 反回神経麻痺をきたすのはどれか。2つ選べ。
 - a 甲状腺癌
 - b 肺門部肺癌
 - c 声帯ポリープ
 - d 脊髄髄内腫瘍
 - e 延髄外側症候群
- 8 上大静脈症候群の際に側副血行路になりやすい静脈はどれか。
 - a 門脈
 - b 奇静脈
 - c 肺静脈
 - d 大腿静脈
 - e 気管支静脈
- 9 Charcot関節の原因疾患とならないのはどれか。
 - a 糖尿病
 - b 血友病
 - c 脊髄瘍
 - d 脊髄損傷
 - e 脊髄空洞症
- 10 更年期障害に対してホルモン補充療法を行うにあたり、もっとも重要な検査はどれか。
 - a 子宮頸がん検診
 - b 経陰超音波断層撮影
 - c 糖負荷試験
 - d 乳がん検診
 - e 血圧測定

- 11 発作性夜間血色素尿症にみられる遺伝子異常はどれか。
- PIG-A遺伝子変異
 - cyclin D1の過剰発現
 - BCR/ABL融合遺伝子
 - JAK-2遺伝子の点変異
 - PML/RAR- α 融合遺伝子
- 12 活動性の高い関節リウマチで認められる検査所見はどれか。2つ選べ。
- matrix metalloproteinase-3 (MMP3) 高値
 - 血小板数の増加
 - 血清補体価の低下
 - 大球性高色素性貧血
 - フェリチン低値
- 13 Alport症候群で正しいのはどれか。
- 緑内障を伴う。
 - 伝音性難聴を伴う。
 - 蛋白尿で発症する。
 - ネフリン蛋白の異常が原因である。
 - 糸球体基底膜の菲薄化がみられる。
- 14 原発性アルドステロン症で正しいのはどれか。
- 2次性高血圧の原疾患として最も頻度が高い。
 - 高カリウム血症をきたすことが多い。
 - コルチゾールの日内変動は消失する。
 - 90%以上が手術適応となる。
 - 第1選択薬は利尿薬である。
- 15 *Mycobacterium kansasii*肺感染症について正しいのはどれか。
- 女性に多い。
 - 治療は抗結核薬の単剤投与が標準である。
 - クオンティフェロン®TB-2Gの検査が陰性となる。
 - 一次感染型では上肺野の肺野型空洞で発症するものが多い。
 - Mycobacterium avium complex*肺感染症と比べ日和見感染症の傾向が強い。
- 16 血清IgG、IgA、IgMがすべて低値となるのはどれか。
- 肝硬変
 - 全身性エリテマトーデス
 - 全身性キャッスルマン病
 - 原発性マクログロブリン血症
 - Bence-Jones 型多発性骨髄腫
- 17 古典的なCreutzfeldt-Jakob病について正しいのはどれか。
- 40歳代に多い。
 - 角膜移植で発症する。
 - 常染色体劣性遺伝が多い。
 - 髄液中の14-3-3蛋白が上昇する。
 - プリオン蛋白の経口摂取により発症する。
- 18 胆嚢結石について正しいのはどれか。
- 男性に多い。
 - 浮遊結石は黒色石が多い。
 - コレステロール結石が多い。
 - 黄疸の原因になることはない。
 - 胆嚢癌では胆石の合併は稀である。
- 19 顔位について正しいのはどれか。
- 第1回旋の異常である。
 - 第2回旋の異常である。
 - 第3回旋の異常である。
 - 第4回旋の異常である。
 - 微弱陣痛により発生する。
- 20 経皮的冠動脈形成術の適応として誤っているのはどれか。
- 無痛性心筋虚血
 - 不安定狭心症
 - 急性心筋梗塞
 - 異型狭心症
 - 安定狭心症

21 過敏性肺炎について誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a わが国では農夫肺が最も多い。
- b Ⅲ型アレルギーが関与する。
- c Ⅳ型アレルギーが関与する。
- d ツベルクリン反応の陰性化が見られる。
- e 血清IgEが増加する。

22 原発性副甲状腺機能亢進症の血液検査所見で低値を示すのはどれか。2つ選べ。

- a ALP
- b リン
- c カルシウム
- d intact PTH
- e 重炭酸イオン

23 29歳の初産婦。これまでの健診で異常を指摘されたことは無かった。妊娠30週0日に下腹痛と少量の出血を認め受診した。

受診時の内診所見では、先進部は児頭で下降度はSP-1、子宮口は2cm開大し展退度は50%であり胎胞を認め、羊水流出は無く少量の出血を認めた。

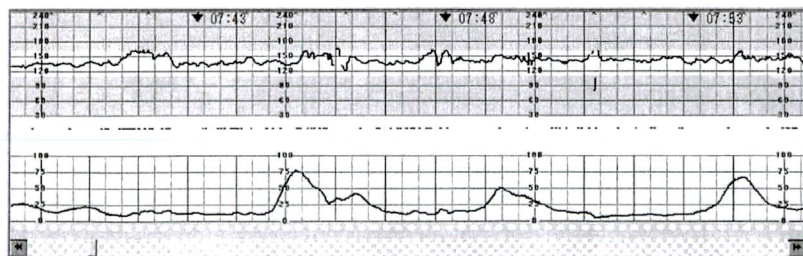
血液検査所見：WBC 8,000、Hb 11.5 g/dl、血小板 20万、CRP 0.03 mg/dl

超音波検査所見：胎児推定体重 1,500g 羊水、胎盤に異常所見無し。

受診時の胎児心拍数陣痛図を示す。

この患者に行うべきことはどれか。

- a 羊水穿刺
- b 帝王切開
- c 抗菌薬投与
- d 子宮収縮抑制薬投与
- e CST（コントラクションストレステスト）



胎児心拍数陣痛図

24 75歳の男性。農作業中に右眼の視野に光が飛ぶような感じが起こった。その数分後、急に視野の中心から下方にかけて見えなくなったため、直ちに外来を受診した。視力は右眼0.08（矯正不能）、左眼0.8（1.0×-0.5D）、眼圧は正常値であった。眼底検査の結果、直ちに右眼の眼球マッサージを行ったところ、矯正視力は0.6に回復した。

初診時の右眼眼底所見はどれか。

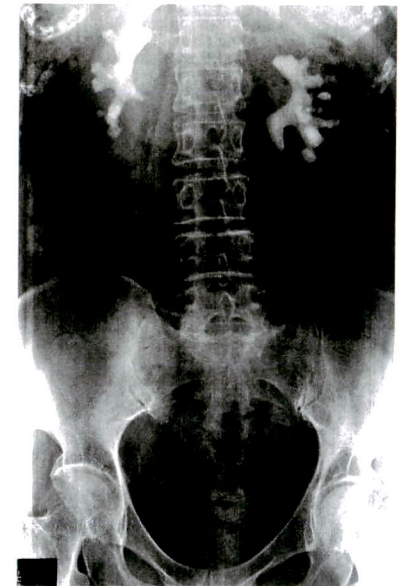
- a 上耳側動脈領域の網膜混濁
- b 上耳側静脈領域の網膜出血
- c 上方網膜からの剥離
- d 視神経乳頭の発赤
- e 視神経乳頭の蒼白

25 65歳の女性。右側腹部の鈍痛と時折見られる肉眼的血尿を主訴に来院した。

腹部単純写真で図のような所見を得た。

この症例の治療として正しいのはどれか。

- a 右腎摘除術
- b 胆石切除術
- c 抗菌薬の長期投与
- d 利尿薬の長期投与
- e 両腎の体外衝撃波碎石術



腹部単純写真

26 20歳の男性。本日起床時から特に誘因もなく突然激しい回転性めまいに襲われ、持続するため来院した。吐気が強く、嘔吐したという。聴力障害はなく、耳鳴り、耳閉塞感もなかった。手足のしびれ、舌のもつれなどめまい以外に神経学的異常所見は認められなかった。鼓膜所見には、中耳炎の所見はなかった。既往症に特記すべきことはないが、2週間前に風邪をひいたという。今回が初めてのめまい発作である。

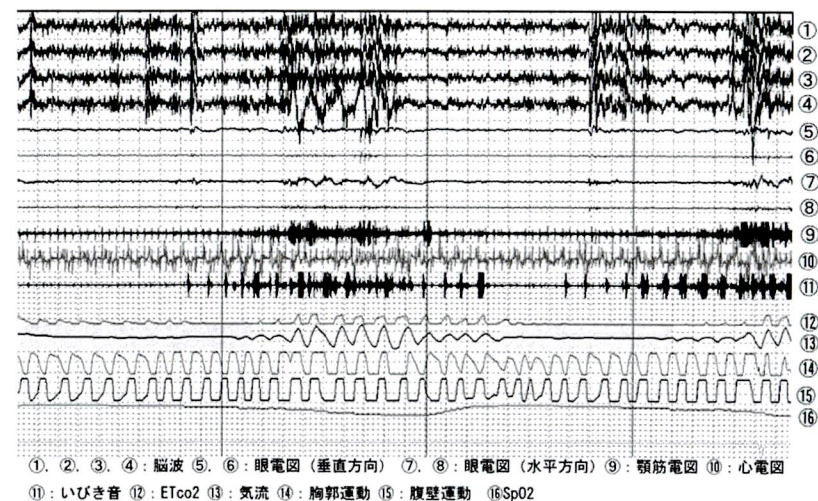
本症例の診断として疑われる疾患で、予想される検査所見はどれか。

- a 眼振は頭位の変換で誘発され、純回旋性で、眼振に潜伏時間、減衰を認める。
- b 眼振は定方向性の水平回旋混合性で数時間続く。
- c 眼振は方向交代上向性頭位眼振で、その眼振は2週間程度続く。
- d 温度眼振検査では一側の高度CP（半規管麻痺）を認める。
- e ロンベルク検査は陰性である。

27 39歳の男性。いびきと日中の極度の眠気を主訴に来院した。職場でも居眠りが多く、仕事にも支障をきたすようになった。妻によると3年前から体重が増加するにつれて睡眠中のいびきがひどくなり、最近ではしばしば呼吸が止まった状態になるという。身長 167.1 cm、体重 105 kg。視診上、扁桃肥大が認められた。抑うつ気分や不安感はなく、入眠障害や早朝覚醒あるいは夜間の足のむずむずする違和感はない。夜間睡眠時ポリグラフの結果を示す。

治療について正しいのはどれか。

- a 睡眠導入薬投与
- b 抗甲状腺薬投与
- c クロナゼパム投与
- d 在宅酸素療法
- e 側臥位での睡眠



夜間睡眠時ポリグラフの結果

28 55歳の女性。歯肉出血をきたして来院した。

現病歴：一週間前より感冒様症状があった。今朝、口腔内からじわじわと出血し、止血しないので受診した。

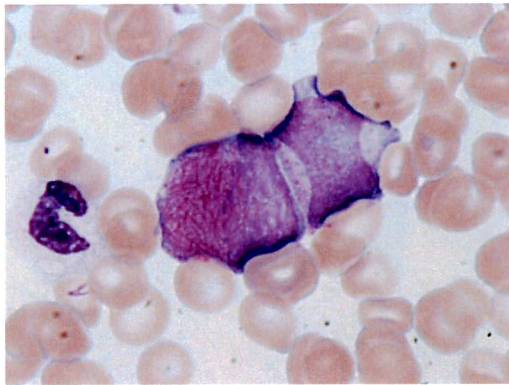
既往歴：特記すべきことなし。

現症：意識は清明。体温 37.5℃。脈拍 96/分、整。血圧 100/50 mmHg。眼瞼結膜貧血様で、口腔内に血腫をみとめ、皮膚に紫斑をみとめた。

検査所見：白血球 1,900、ヘモグロビン 7.4 g/dl、血小板 1.5万、LD (LDH) 289 U/l (基準 119 - 229) であった。骨髓検査を施行し、図のような細胞をみとめた。

考えられるのはどれか。

- a 急性リンパ性白血病
- b 急性前骨髄球性白血病
- c 急性前リンパ球性白血病
- d 血栓性血小板減少性紫斑病
- e 慢性骨髄性白血病 (急性転化)

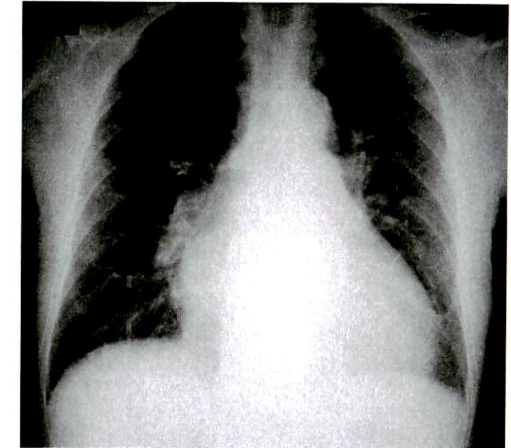


図

29 78歳の女性。数か月前から労作時の呼吸苦と下肢の浮腫が出現した。昨夜から起座呼吸となり次第に呼吸苦が増強するため救急外来を受診した。意識は清明。身長 158cm、体重 68kg。体温 37.2℃。脈拍 120回/分、整。血圧 180/90 mmHg、酸素飽和度 99% (酸素 2 l/分投与下)。両下肢に著大な浮腫を認める。来院時に撮影した胸部レントゲン写真を示す。

次に行うべきことはどれか。

- a 気管内挿管
- b 心膜腔穿刺
- c 電氣的除細動
- d 心エコー検査
- e 心臓カテーテル検査



胸部レントゲン写真

- 30 38歳の女性。10年前より右耳下部に腫瘍があったが、2年前より増大してきた。腫瘍は境界明瞭で、表面に凹凸があり可動性は良い。圧痛はない。頸部所見を示す。

手術で摘出する予定としたが、その際患者に説明する必要性が少ない合併症はどれか。

- a 唾液瘻
- b 開口障害
- c 腫瘍の再発
- d 顔面神経麻痺
- e 耳介後面の感覚鈍麻



頸部所見

- 31 14歳0か月の女子。低身長を主訴に来院した。身長139.8cm (−3.0S.D.)、体重33.0kg。骨年齢12歳6か月。父の身長172cm、母の身長158cm。生来小柄であった。初潮はまだ認めない。翼状頸、後頭部低毛髮線、外反肘がみられる。乳房の腫大はTanner分類のII期に相当し、陰毛は認めていない。

最も考えられるのはどれか。

- a 成長ホルモン分泌不全性低身長
- b 先天性甲状腺機能低下症
- c 真性思春期早発症
- d 体質性低身長
- e Turner症候群

- 32 30歳の女性。数年前から喘息発作を認め、ステロイド吸入と気管支拡張薬を通年的に使用していた。半年前には消炎鎮痛薬を服用後に強い喘息発作を起こし、入院治療を受けた既往がある。7日前に感冒に罹患し、喘鳴が出現し増悪したため外来を受診した（消炎鎮痛薬は服用していない）。受診時、空気呼吸下での動脈血液ガス分析では、 PaCO_2 33 Torr、 PaO_2 80 Torrであった。喘鳴が強かったため、ネブライザーにて β_2 刺激薬の吸入が開始され、さらにネオフィリンとコハク酸ヒドロコルチゾンの点滴静注も開始された。10分間ほどでネブライザーが終了し、自覚症状の改善を認めたが、その10分後位から再び喘息発作が出現し、急速に呼吸状態の悪化、チアノーゼを認めた。

対応として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 点滴速度を速める。
- b 酸素吸入を開始する。
- c 抗アレルギー薬を内服させる。
- d β_2 刺激薬のネブライザーを再度追加する。
- e 長時間作動型 β_2 刺激薬の貼布薬を使用する。

- 33 在胎37週3日、出生体重2,300g、自然分娩で出生した新生児。出生後10時間で嘔吐があり診察を依頼された。啼泣が弱く、筋緊張の低下を認める。腹部は膨隆し、グル音を聴取する。腹部エックス線写真を示す。

この疾患にみられる所見はどれか。

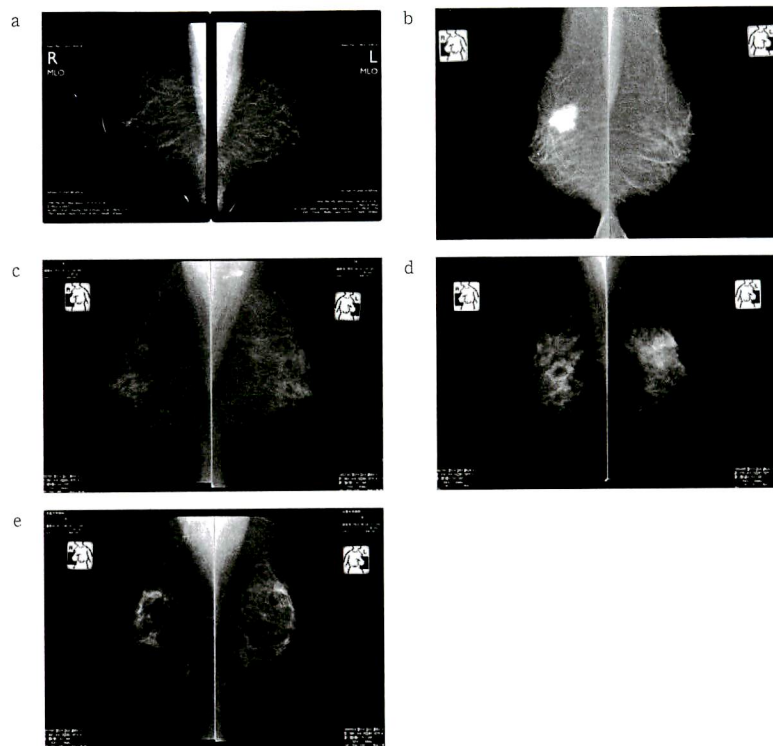
- a 代謝性アルカローシス
- b 胎児期の羊水過少症
- c Coil-up sign
- d 無胆汁性嘔吐
- e 灰白色便



腹部エックス線写真

34 検診で撮影された乳房レントゲン検査（マンモグラフィー検査）を示す。

“がん”との鑑別が必要な、精密検査を要するマンモグラフィー症例を2つ選べ。



35 57歳の男性。顔面の皮疹を主訴に来院した。2か月前から顔面の赤みに対し、近医で処方された外用薬による治療を受けていた。1か月前より手にも皮疹が出現し、いずれも外用薬で改善しないという。また、最近では体が疲れやすく、階段の昇り降りがつらくなった。手背の写真を示す。

この症例の疾患で見られる皮膚症状はどれか。2つ選べ。

- a 手指の硬化
- b 円板状皮疹
- c 多形皮膚萎縮
- d Raynaud現象
- e ヘリオトロープ疹



手背の写真

36 30歳の男性。「エイズが心配」との理由で受診した。血液検査では、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）抗体が陽性（ウエスタンブロット法）。ヒト免疫不全ウイルス（HIV-RNA）定量値は 1.8×10^3 コピー/ml（基準 5.0×10 以下）、CD4陽性T細胞数は $800/\mu l$ （基準 $600 \sim 1400/\mu l$ ）であった。自他覚症状はない。

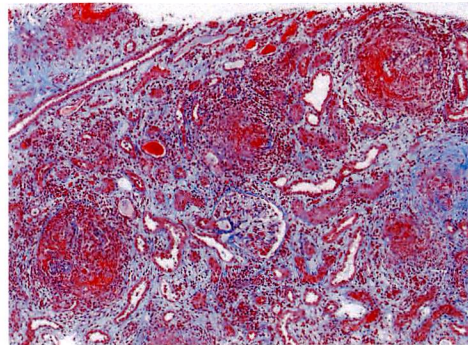
正しいのはどれか。

- a ST合剤を予防投与した。
- b ガンシクロビルを予防投与した。
- c 3か月後に再び血液検査をした。
- d 後天性免疫不全症候群（AIDS）と診断した。
- e 抗レトロウイルス薬の多剤併用療法を推奨した。

37 70歳の男性。血痰を主訴に来院した。1 か月前より咳嗽と微熱を自覚し、市販の総合感冒薬を内服していた。昨日より痰に血が混じるようになった。意識は清明。体温37.6℃。脈拍92/分、整。血圧 148/92 mmHg。両下肺野に乾性ラ音を聴取。両下腿に浮腫を認めた。尿所見：蛋白2+、潜血3+、沈渣：赤血球 30-40/1 視野、白血球 8-10/1 視野、顆粒円柱陽性、赤血球円柱陽性。血液生化学所見：総蛋白 6.8 g/dl、アルブミン 3.1 g/dl、尿素窒素 43 mg/dl、クレアチニン 3.5 mg/dl。腎生検Masson染色標本を示す。蛍光抗体法では免疫グロブリン、補体の局在を認めなかった。

診断はどれか。

- a 溶連菌感染後急性糸球体腎炎
- b 薬剤性尿細管間質性腎炎
- c 顕微鏡的多発血管炎
- d Goodpasture症候群
- e ループス腎炎



腎生検Masson染色標本

38 46歳の女性。2年前に健康診断で尿糖を指摘され、自分なりに食事療法を行っていた。

今回糖尿病が心配になり来院した。母親が糖尿病である。

身体所見：身長 169cm、体重 80kg。

尿所見：蛋白（-）、糖（-）。空腹時血糖 113 mg/dl。

行うべき検査はどれか。

- a 血中インスリン値測定
- b 経口ブドウ糖負荷試験
- c 尿中Cペプチド測定
- d グルカゴン負荷試験
- e 72時間絶食試験

39 55歳の男性。乾性咳嗽と労作時呼吸困難のため来院した。約10年前の会社健診で初めて胸部エックス線検査で異常を指摘されたが放置していた。その後、時々軽度の乾性咳嗽を自覚するようになり、昨年より労作時呼吸困難を伴うようになった。今年に入ってから、症状の悪化を認めるようになったため受診した。受診時の胸部エックス線検査にて両側上肺野に広がる粒状影と肺門部リンパ節の卵殻状石灰化を認めた。

原因として考えられるのはどれか。

- a ケイ酸
- b 酸化鉄
- c アスベスト
- d ベリリウム
- e アルミニウム

40 38歳の男性。ペットボトルをあけるとときにキャップから上手く手をはなせないことを主訴に受診。手は全体にやせており、前頭部禿頭を認めた。筋力は遠位筋優位に低下していた。

この症例の筋電図所見でみられるのはどれか。

- a Waxing現象
- b 急降下爆撃音
- c Fibrillation potential
- d Positive sharp waves
- e Fasciculation potential

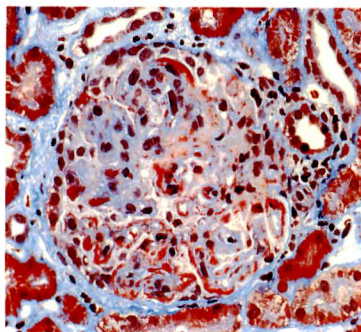
41 27歳の女性。肉眼的血尿を主訴に来院した。1 か月前から微熱があったが、昨日朝、尿が赤黒く混濁し38℃台の発熱が出現した。身長162 cm、体重51 kg。血圧 142/86 mmHg。手指小関節腫脹有り。浮腫なし。尿所見：蛋白2+、糖（-）、潜血3+、沈渣に赤血球多数/1視野、赤血球円柱をみる。血液所見：赤血球 480万、Hb 14.8 g/dl、白血球 2,800、血小板 16万。血液生化学所見：アルブミン 3.8 g/dl、クレアチニン 1.1 mg/dl。

免疫学所見：CRP 0.2 mg/dl、血清補体価 12 単位/ml（基準28～48）。

腎生検所見（マッソン染色400倍）を示す。

診断はどれか。

- a IgA腎炎
- b 紫斑病性腎炎
- c ループス腎炎
- d 急性糸球体腎炎
- e 顕微鏡的多発血管炎



腎生検所見（マッソン染色400倍）

42 35歳の女性。3 か月前からの食欲不振、体重減少を主訴に来院した。上腹部に圧痛を認め、下腹部に腫瘤を触知する。CEA 50 ng/dl（基準 5 以下）、CA19-9 127（基準 37 以下）であった。骨盤造影 CT を示す。転移性悪性腫瘍が疑われる。

原発巣としてもっとも考えられるのはどれか。

- a 肝 癌
- b 胃 癌
- c 食道癌
- d 胆管癌
- e 子宮癌



骨盤造影 CT

43 31歳の女性。6 か月続いた無月経を主訴として近医を受診した。プロラクチン 150 ng/ml（基準 3.6～12.8）を指摘されたため来院した。身長 158cm、体重 53kg。頭部下垂体MRIを施行したところ、トルコ鞍内に径7mmの腫瘍性病変を認めた。

第一選択の治療薬はどれか。

- a 副腎皮質ステロイド
- b セフェム系抗菌薬
- c レボサイロキシシン
- d プロモクリプチン
- e デスモプレシン

44 21歳の女性。パニック障害にて治療を受けている。突然空気飢餓感を感じ、その後呼吸困難、両手指のしびれ、硬直が出現。救急車にて搬送された。

来院時の血圧は 108/64 mmHg。脈拍104回/分、整。経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）は98%であった。

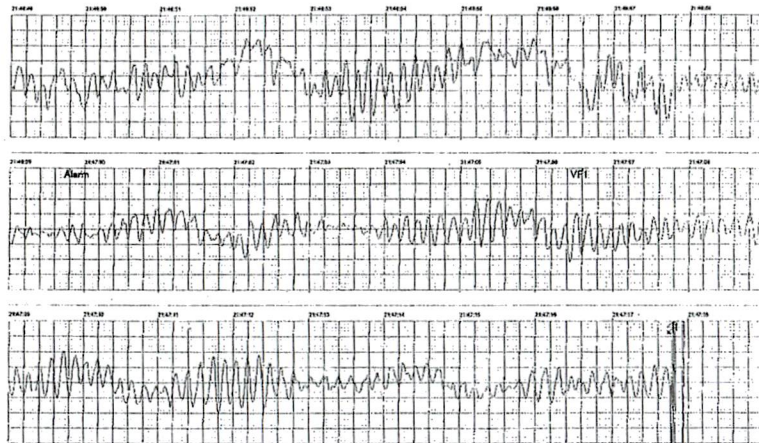
検査所見で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a A-aDO₂は正常である。
- b 呼吸性アルカローシスを認める。
- c 血清カルシウム濃度は低下している。
- d 呼吸機能検査では拘束性換気障害を認める。
- e 胸部エックス線検査では、び慢性のスリガラス陰影を認める。

- 45 35歳の男性。友人とともに帰宅途中、突然意識消失して転倒した。呼びかけに反応しないため救急隊を要請した。救急隊が到着してAEDモニターで記録された心電図を示す。

原因疾患として該当しないものはどれか。

- a 急性心膜炎
- b 肥大型心筋症
- c 急性心筋梗塞
- d QT延長症候群
- e Brugada症候群



心電図

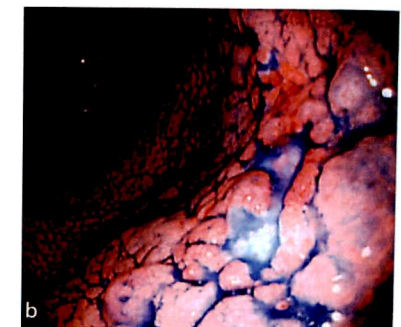
- 46 60歳の男性。会社健診で上部消化管造影検査を受け、異常を指摘され来院した。上部消化管内視鏡写真を示す。

正しいのはどれか。

- a 胃潰瘍
- b 早期胃癌
- c 進行胃癌
- d 慢性胃炎
- e 急性胃粘膜病変



上部消化管内視鏡写真①



上部消化管内視鏡写真②

- 47 37歳の女性。交通事故により左顔面を強打し、前医にて外科処置後、当院へ救急搬送された。視力は右眼0.3 (1.2×-2.0D)、左眼光覚弁（矯正不能）であった。眼球に穿孔創はなく、眼球運動障害を認めない。左顔面写真を示す。

この患者に予想されるのはどれか。

- a 複視
- b 同名半盲
- c 両耳側半盲
- d 直接対光反射の消失
- e 間接対光反射の消失



左顔面写真

48 58歳の男性。会社員。10年前から定期健診で肝機能障害を指摘されていたが放置した。毎晩、焼酎を5～6合程度飲んでいる。2年前より手指振戦が出現。酩酊時の転倒や失禁が度々みられるようになった。以前から休日は朝から飲酒していたが、最近は体調不良を理由に会社を休み朝から飲酒するようになった。心配した妻に連れられ精神科を受診。本人も「自分でも酒を飲み過ぎていると思う。なんとかしたいとは思っている」と話した。

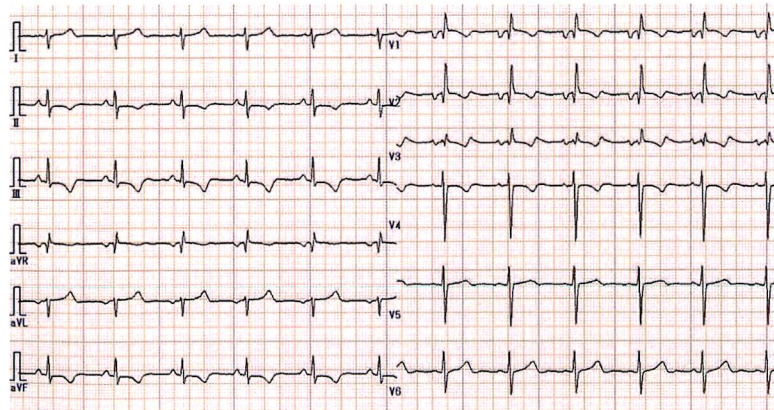
この患者に対する初診時の対処として誤っているのはどれか。

- a 抗酒薬の服用を提案する。
- b 酒量を減らすように指導する。
- c ジアゼパムを投与する。
- d 患者本人の治療に対する希望を尋ねる。
- e 自助グループを案内する。

49 28歳の女性。妊娠30週より切迫早産で入院し安静臥位を続けていた。5日前に妊娠36週で胎児に遷延一過性徐脈が出現し、緊急帝王切開術を受けた。早朝から呼吸困難、左下肢に浮腫が出現し、痛みと灼熱感を訴えている。悪露は正常、内診で子宮は超手拳大である。腹壁切開創に異常はない。心電図を示す。

適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 再開腹
- b 酸素投与
- c 利尿薬投与
- d 抗凝固薬投与
- e 子宮収縮促進薬

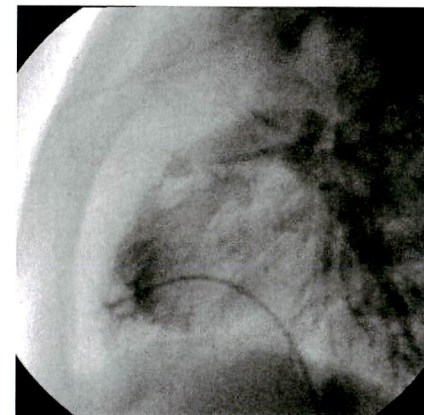


心電図

50 6か月の乳児。動脈血酸素飽和度は85%で、心臓超音波検査では、心室中隔欠損を認めた。心臓カテーテル検査では、左室拡張末期容積は正常の60%であった。右室造影を示す。

正しいのはどれか。

- a 二心室修復の適応である。
- b 肺動脈絞扼術の適応である。
- c Blalock-Taussig短絡手術の適応である。
- d 無酸素発作予防のため β 刺激薬を投与する。
- e 経皮的カテーテルバルーン肺動脈拡大術の適応である。



右室造影

51 37歳の女性。火災現場より意識障害で発見された。来院時、意識はJCS 200。瞳孔は3.0 mm同大、対光反射は迅速。脈拍127/分、整。血圧149/80 mmHg。呼吸数23/分。酸素飽和度100%。体温37.1℃。外表上に明らかな熱傷は認められず、皮膚は鮮紅色であった。

この患者の血液検査所見で最も考えやすい異常はどれか。2つ選べ。

- a 乳酸の上昇
- b 血糖の低下
- c 尿素窒素の上昇
- d ナトリウムの低下
- e ミオグロビンの上昇

52 52歳の女性。夫の自営の工場の経理を手伝っている。数か月前から資金繰りが悪化し、先行きを不安に感じていた。1か月ほど前から眠れなくなり、不安焦燥感が出現。体重が4 kg減少した。表情は暗く、家事も手につかなくなった。「もううちは破産した。従業員に給料を支払えないので死ぬしかない」と訴えるようになったため、夫に連れられて精神科を受診した。

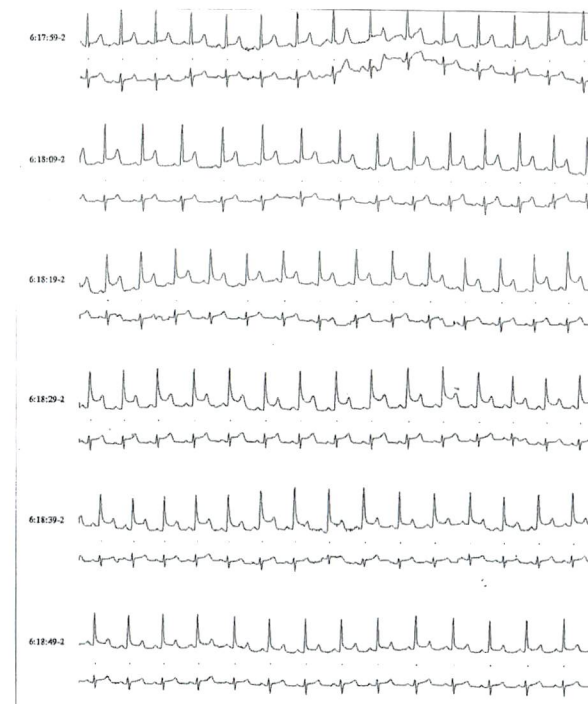
治療薬で第一に選択するものはどれか。

- a 睡眠薬
- b 抗不安薬
- c 抗精神病薬
- d 抗うつ薬
- e 気分調整薬

53 48歳の男性。3か月前より夜間から早朝にかけて冷汗を伴う胸部圧迫感を自覚するようになった。近医で冠動脈MDCT検査を受けたが有意狭窄は認められなかった。発作の持続時間は5～10分程度で、日中労作時に胸部症状の出現は見られない。発作時のホルター心電図を示す。

この疾患について正しいのはどれか。

- a 過換気は発作の誘因とはならない。
- b 致死的不整脈を合併することはない。
- c カルシウム拮抗薬が治療に有効である。
- d アセチルコリン投与が治療に有効である。
- e ニトログリセリンは発作寛解に無効である。



ホルター心電図

54 67歳の男性。突発する回転性めまいのために来院した。緊急で施行した頭部MRI拡散強調画像を示す。

この患者で認める症候はどれか。

- a 右半身の深部覚障害
- b 右小脳性運動失調
- c 左Horner症候群
- d 右軟口蓋麻痺
- e 右片麻痺



頭部MRI拡散強調画像

55 63歳の男性。午後9時頃から胸苦しさとともに嘔気、頻回の嘔吐、眩暈が出現したために搬送された。来院時、意識は15 (E3V4M6)、瞳孔5 mm同大、対光反射迅速、血圧 210/130 mmHg、脈拍 90/分であった。頭部単純CTにて小脳出血と、これに伴う水頭症を認めた。気管挿管、人工呼吸器管理下に脳室ドレナージを施行し集中治療室に入室となった。鎮静薬投与により1回換気量を規定した人工呼吸器管理を行っていたが、翌朝突然パルスオキシメータで酸素化能の低下、ショックに陥り、気道内圧の著しい上昇を示す警報が鳴った。右胸郭の膨隆と呼吸音の低下を認めた。

初期対応として最も適切なものはどれか。

- a アンビューバッグによる強制換気
- b 人工呼吸器の点検
- c 胸腔ドレーン挿入
- d 胸部CT撮影
- e 急速輸液

56 49歳の女性。昨年頃より月経の周期や出血量が不規則になっている。その頃より、発汗がひどく、のぼせて顔が赤くなるようなことが多くなった。また同時期より、気分が重く意欲が出ないため、医療機関を受診した。

このような症例の治療に使われるものはどれか、3つ選べ。

- a プロゲステロン
- b プロスタグランディン
- c エストロゲン
- d ヒト絨毛性ゴナドトロピン<HCG>
- e セロトニン再取り込み阻害薬<SSRI>

57 生後2か月の乳児。母親が右前頭部の腫瘍に気づき受診した。母親の話では常に左を向いて寝ているという。頸椎単純エックス線写真に異常はない。前頭部超音波エコー検査で胸鎖乳突筋の厚さに左右差を認めたが、その他リンパ節の腫脹や軟部腫瘍は認めない。先天性疾患は認めない。

正しい治療はどれか。

- a 経過観察
- b 手術療法
- c マッサージ
- d 牽引療法
- e 装具療法

58 82歳の女性。一昨日から体調を崩し自宅で仰臥位のまま寝たきりとなり搬送された。仙骨部の写真を示す。

誤っているのはどれか。

- a 便汚染に注意する。
- b 十分に乾燥させる。
- c 栄養状態に注意する。
- d エアーマットを使用する。
- e 2時間ごとの体交を行う。



仙骨部の写真

59 2月下旬、ある地域で集団食中毒が発生した。腹痛、下痢、発熱が主な症状であったが、嘔吐はなかった。潜伏期間は20から40時間であった。卵が原因と考えられた。

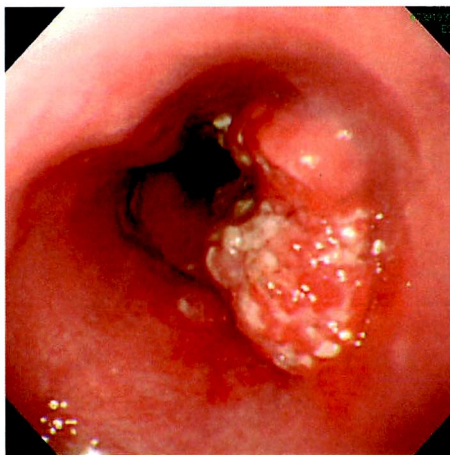
考えられる原因菌はどれか。

- a ブドウ球菌
- b カンピロバクター
- c ボツリヌス菌
- d サルモネラ
- e Welch菌

60 65歳の男性。嚥下困難と体重減少を主訴に来院した。上門歯列から32cmの胸部中部食道の食道内視鏡写真を示す。根治手術が予定された。

正しいのはどれか。

- a リンパ節郭清の必要はない。
- b 内視鏡写真から表在癌が疑われる。
- c 術後第1病日より経口摂取を開始する。
- d 食道部分切除術が第1選択の術式である。
- e 切除後の再建臓器として胃が用いられることが多い。

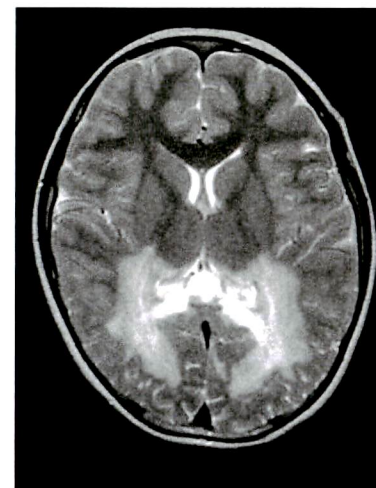


食道内視鏡写真

61 8歳の男児。視力障害を主訴に来院した。1か月前から急激に視力が低下し、まっすぐに歩くことができなくなった。転倒したり物にぶつかることが多くなり、一人では歩くことができなくなった。視力は両側手動弁の状態、下肢の深部腱反射亢進と両側の足クローヌスを陽性に認めた。半年前から多動傾向が出現し、落ち着きがなくなり、会話が混乱することが多くなったという。血中の極長鎖脂肪酸分析で、C 24:0/C 22:0 1.386 (基準 0.628 ~ 0.977)、C25:0/C22:0 0.061 (基準 0.012 ~ 0.023)、C26:0/C22:0 0.023 (基準 0.003 ~ 0.006) と著明な増加を認めた。頭部MRI検査のT2強調画像を示す。

適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 常染色体優性遺伝性疾患である。
- b 保因者は父である。
- c 造血幹細胞移植が有効である。
- d Lorenzoオイルが症状の進行を抑制する。
- e メチルフェニデートが症状の進行を抑制する。



T2強調画像

62 37歳の初産婦が妊娠32週4日に異常を指摘され紹介となった。

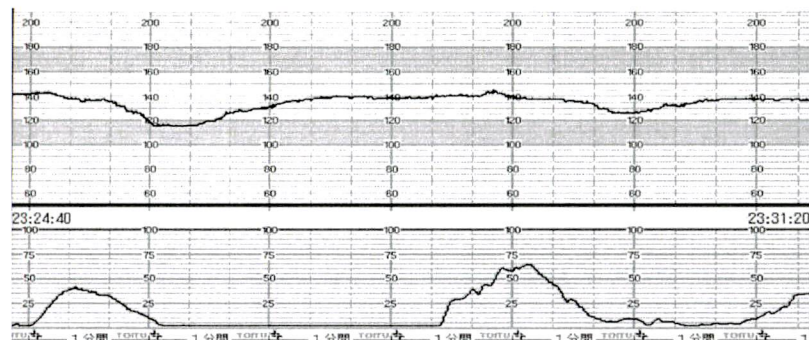
受診時に血圧 150/90 mmHg、尿蛋白 2+、下肢に浮腫を認めた。

子宮底長 22 cm、胎児推定体重 1,200 g、AFI（羊水インデックス）4 cmで30分間に胎動を認めなかった。

来院時の胎児心拍数陣痛図を示す。

正しいのはどれか。

- a 羊水過多を認める。
- b 子宮内発育遅延を認める。
- c 妊娠高血圧腎症は重症型である。
- d 胎児の状態はwell-beingである。
- e BPS (biophysical profile score) は8点である。



胎児心拍数陣痛図

63 35歳の男性。数年前より肘頭、膝蓋に持続する紅斑を認めていたが、放置していたところ徐々に皮疹の範囲が拡大してきた。1か月前に風俗店に行った後より、陰茎亀頭に皮疹が生じたため受診した。皮疹は主として被髪部、肘頭、膝蓋、亀頭部、下腿に銀白色の鱗屑が付着する境界明瞭な紅斑が散在性に認められた。

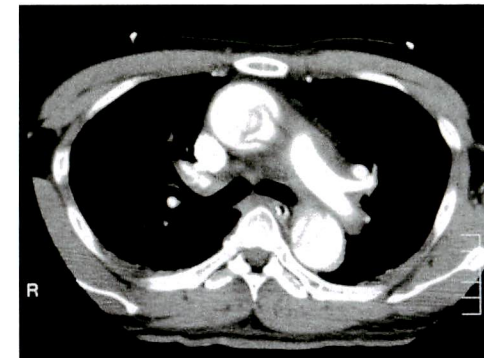
この疾患について正しいのはどれか。

- a 性感染症である。
- b 紫外線で改善する。
- c 悪性リンパ腫に移行する。
- d Nikolsky現象が陽性である。
- e 副腎皮質ステロイド薬内服が有効である。

64 56歳の男性。高血圧があり、内服治療中であった。突然激しい前胸部痛と背部痛が出現し、持続するため救急車にて救命センターを受診した。来院時、血圧 168/92 mmHg、心拍数 86/分、整。意識は清明であった。心電図は洞調律で、ST-T変化はなく、胸部エックス線写真では軽度心陰影拡大を認めたが、肺野に異常所見は認めなかった。胸部造影CT検査を示す。

正しいのはどれか。

- a 安静と降圧による保存的治療が第一選択である。
- b ヘパリン投与による抗凝固治療が必要である。
- c ステントグラフト治療の良い適応である。
- d 下行大動脈人工血管置換術の適応である。
- e 上行大動脈～弓部大動脈人工血管置換術の適応である。



胸部造影CT検査

65 38歳の男性。頭痛とふらつきを主訴に来院した。3年前から頭痛、易疲労感、口渴および物の見えにくさを自覚し、それらが徐々に増悪してきた。身長160cm、体重58kg。脈拍60回/分、整。血圧 128/74 mmHg。両耳側半盲、記銘力低下を認める。尿所見:比重 1.001、蛋白 (-)、17-KS 0.5 mg/日 (基準3 ~11)、17-OHCS 1.7 mg/日 (基準3 ~11)。頭部造影MRI T1強調像 (冠状断) を示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 神経膠腫
- b 神経鞘腫
- c 胚細胞腫
- d 頭蓋咽頭腫
- e 海綿状血管腫



頭部造影MRI T1強調像 (冠状断)

66 日齢10日の新生児。新生児マススクリーニング検査で17ヒドロキシprogesteroneの高値を指摘された。体重増加不良、脱水、全身の色素沈着を認めた。外性器の写真を示す。

この症例にみられるのはどれか。2つ選べ。

- a 血糖値低下
- b 血漿ACTH値上昇
- c 血漿レニン活性低下
- d 血清ナトリウム値上昇
- e 血清アンドロゲン値低下

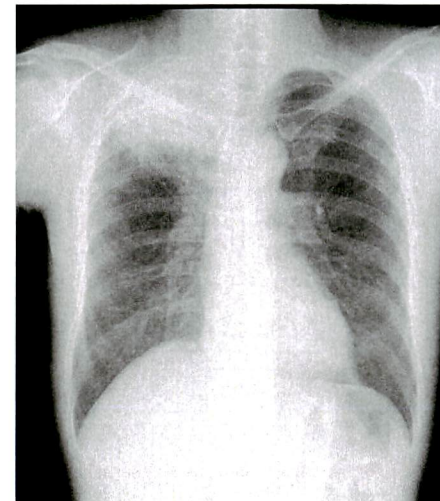


外性器の写真

67 48歳の男性。右肩の痛みを主訴に来院した。1か月程前より痛みが出現し、徐々に悪化。右肩から上肢にかけてのしびれも伴うようになった。喫煙は20本/日を28年間。意識は清明。身長165cm、体重53Kg。体温36.5℃。脈拍64回/分、整。血圧 128/70 mmHg。心音純。呼吸音は右上肺野で減弱していたが、異常音はなかった。胸部エックス線写真を示す。入院後の検査にて肺扁平上皮癌と診断された。

随伴症状はどれか。

- a Horner症候群
- b Cushing症候群
- c カルチノイド症候群
- d Lambert-Eaton症候群
- e ADH不適合分泌症候群 (SIADH)



胸部エックス線写真